

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 12 月 17 日 (2020.12.17)

【公開番号】特開 2019-113874 (P2019-113874A)

【公開日】令和 1 年 7 月 11 日 (2019.7.11)

【年通号数】公開・登録公報 2019-027

【出願番号】特願 2019-76152 (P2019-76152)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/02 (2006.01)

H 0 1 L 27/32 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

H 0 5 B 33/02 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

G 0 9 F 9/00 (2006.01)

B 3 2 B 7/023 (2019.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

B 3 2 B 23/20 (2006.01)

B 3 2 B 27/30 (2006.01)

B 3 2 B 27/20 (2006.01)

B 0 5 D 5/06 (2006.01)

B 0 5 D 7/24 (2006.01)

B 0 5 D 3/02 (2006.01)

B 0 5 D 3/06 (2006.01)

【 F I 】

G 0 2 B 5/02 B

G 0 2 B 5/02 C

H 0 1 L 27/32

H 0 5 B 33/14 A

H 0 5 B 33/02

G 0 2 F 1/1335

G 0 9 F 9/00 3 1 3

B 3 2 B 7/023

B 3 2 B 27/00 B

B 3 2 B 23/20

B 3 2 B 27/30 A

B 3 2 B 27/20 Z

B 0 5 D 5/06 D

B 0 5 D 7/24 3 0 2 P

B 0 5 D 7/24 3 0 3 B

B 0 5 D 7/24 3 0 1 R

B 0 5 D 7/24 3 0 1 T

B 0 5 D 3/02 Z

B 0 5 D 3/06 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 10 月 28 日 (2020.10.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

拡散反射強度の総和 V に対する拡散正反射強度 R の比である R/V

(式中、拡散正反射強度 R は、防眩フィルムの測定対象である表面に向けて、法線から 45 度の角度で可視光線を照射した際の拡散性反射方向で、変角光度計により開口角 1 度で測定した拡散反射強度であり、拡散反射強度の総和 V は、防眩フィルムの測定対象である表面に向けて、法線から 45 度の角度で可視光線を照射した際の拡散性反射方向に対して、 -45 度 $\sim+45$ 度まで 0 度を含む 1 度毎に、変角光度計により開口角 1 度で測定した拡散反射強度の総和である)

が 0.01 $\sim$ 0.12 であり、ヘイズが 30% 以上であり、60 度グロスが 0 $\sim$ 25% であり、かつ透過光の色度 b^* の絶対値が 3 以下である防眩フィルム。

【請求項 2】

透明基材層と、この透明基材層の少なくとも一方の面に形成された防眩層とを含み、前記防眩層が、1 種以上のポリマー成分及び 1 種以上の硬化樹脂前駆体成分を含む硬化性組成物の硬化物である請求項 1 記載の防眩フィルム。

【請求項 3】

ポリマー成分及び硬化樹脂前駆体成分から選択される少なくとも 2 つの成分が、湿式スピノーダル分解により相分離可能である請求項 2 記載の防眩フィルム。

【請求項 4】

ポリマー成分が、セルロースエステル類及び／又は重合性基を有していてもよい(メタ)アクリル系重合体を含む請求項 2 又は 3 記載の防眩フィルム。

【請求項 5】

硬化樹脂前駆体成分が、多官能(メタ)アクリレート、エポキシ(メタ)アクリレート、ポリエステル(メタ)アクリレート、ウレタン(メタ)アクリレート及びシリコーン(メタ)アクリレートから選択された少なくとも 1 種を含む請求項 2 $\sim$ 4 のいずれかに記載の防眩フィルム。

【請求項 6】

硬化樹脂前駆体成分が、シリカナノ粒子及び／又はフッ素原子を含む請求項 2 $\sim$ 5 のいずれかに記載の防眩フィルム。

【請求項 7】

硬化性組成物を熱又は活性エネルギー線で硬化させる硬化工程を含む請求項 2 $\sim$ 6 のいずれかに記載の防眩フィルムの製造方法。

【請求項 8】

支持体の上に、1 種以上のポリマー成分及び 1 種以上の硬化樹脂前駆体成分を含む硬化性組成物を塗布して乾燥することにより、ポリマー成分及び硬化樹脂前駆体成分から選択される少なくとも 2 つの成分を、湿式スピノーダル分解により相分離させる相分離工程をさらに含み、硬化工程が、相分離した硬化性組成物を熱又は活性エネルギー線で硬化させる硬化工程である請求項 7 記載の防眩フィルムの製造方法。

【請求項 9】

請求項 1 $\sim$ 6 のいずれかに記載の防眩フィルムを備えた表示装置。

【請求項 10】

有機 EL ディスプレイ又は液晶表示装置である請求項 9 記載の表示装置。

【請求項 11】

拡散反射強度の総和 V に対する拡散正反射強度 R の比である R/V (式中、拡散正反射強度 R は、防眩フィルムの測定対象である表面に向けて、法線から 45 度の角度で可視光線を照射した際の拡散性反射方向で、変角光度計により開口角 1 度で測定した拡散反射強度であり、拡散反射強度の総和 V は、防眩フィルムの測定対象である表面に向けて、法線から 45 度の角度で可視光線を照射した際の拡散性反射方向に対して、 -45 度 $\sim+45$

度まで0度を含む1度毎に、変角光度計により開口角1度で測定した拡散反射強度の総和である)、ヘイズ、60度グロス及び透過光の色度 b^* の絶対値を、それぞれ0.01～0.12、30%以上、0～25%及び3以下の範囲に調整し、防眩フィルムの防眩性及び透明性を向上する方法。